

# 昭和大学附属烏山病院だより あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明  
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭  
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11  
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第157号

[2020年8月31日発行]

## 新任教員のご紹介

臨床薬理研究所 水上 拓也

はじめまして。2019年10月より昭和大学臨床薬理研究所に配属になりました水上拓也です。私は、昭和大学藤が丘病院循環器内科で臨床医療に携わり、2017年10月からベルギーのブリュッセル自由大学病院、翌2018年10月から同国オーエルビー・アールスト病院に留学しておりました。

ベルギーでは、冠動脈生理に関する研究をしていました。冠動脈生理とは、心臓の血管内の血流に関する学問です。狭心症は、心臓の血管（冠動脈）の内腔が狭くなって胸痛などの症状が出る病気で、主に冠動脈ステントで狭くなった血管を広げて治療します。

以前は、見た目（物理的に）狭くなっていけばステントを置いていたのですが、見た目がある程度狭くても、血流が保たれてる症例があり、そういった患者にステント治療しても患者さんのメリットが少ないことがわかりました。そこで血流をしっかりと評価しましょうということになり、現在の主流である血流の低下をもとに、ステント治療するかしないかを判断するようになりました。

その技術の礎を築き、現在も冠動脈生理の世界最高峰のひとつである施設におりました。そこで行っていた医療機器の開発や臨床研究を、現在も日本からリモートで行っております。



留学中は、人との出会いに恵まれ、たくさんの仲間ができました。写真は、ある日の昼食です。私のほかに、イタリア、インド、ルーマニア、ギリシャ、シリアからのフェローと写っています。シリアのフェローがラマダンでしばらく一緒に食事できなかったのが、久しぶりに一緒に昼食をとれた記念の一枚です。様々な文化的民族的背景を持つ仲間と過ごした時間は、私にとって貴重な時間でした。

研究所でたくさんのことを学びながら、留学の経験を還元できればと思っております。

これからもよろしくお願いいたします。

# eラーニングを利用した、初の医療安全・感染講習会を開催

事務課 灰谷 紗織

2020年1月から現在まで、世界中で拡大し続ける新型コロナウイルス感染症。徐々に生活の一部となり、働き方も変化し、リモートワークを導入する企業が多数見受けられます。このような中、当院では毎年リハビリテーションセンターで職員を集めて実施していた医療安全・感染講習会を、今年6月25日から7月3日までの9日間にわたり、eラーニングを利用して実施しました。初めてeラーニングを導入したため、初めは操作方法や職員への周知に戸惑いましたが、終わってみれば受講率が1回目で83.7%（派遣・委託職員除く）と例年より大幅に高い結果となりました。その後、1回目に受講できなかった方へテストを配布し、派遣・委託職員の方へも資料を配布することで、最終的には受講率100%という結果になりました。

この結果は、昨年までの講

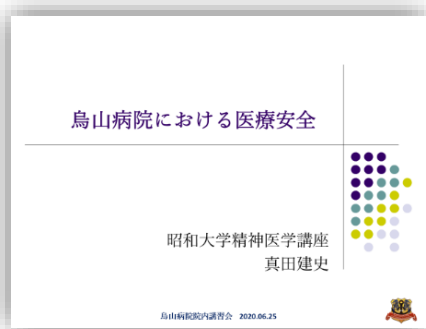
義形式では難しかったと聞き、大変嬉しく思いました。

従来の形式は時間や場所が限定されていたため、通常業務が優先され、講習会への参加が後回しになることや忘れてしまうといった傾向にありました。しかし、eラーニングを導入したことで、パソコンやスマートフォンで手軽に受講でき、仕事及び私生活の合間に受講できるといった、時間や場所に縛られない

ことがこのような結果に繋がったのではないかと思います。また、eラーニングシステムは作成や集計が簡便で、アレンジ方法も多彩にあるため、利用の幅が高いことがわかり、今後の研修会や講習会等で導入していきたいと思いました。

医療安全講習会は、医療安全管理室長の真田准教授に講習会を依頼させて頂きました。精神科ならではの医療事故を防ぐために、職員一人一人が意識を高く持つことを改めて学ばせて頂きました。感染講習会は、感染対策室の池ヶ谷師長に依頼させて頂きました。新型コロナウイルス感染症対策を始め、感染症との向き合い方を学ばせて頂きました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、来院される方への体温測定やマスク着用、面会されるご家族の制限、入院患者さんの外出・外泊の制限等、診療スタイルが大きく変わりました。我々医療従事者も一部業務負担の増加や現場における不安等からのストレスが高まっていると考えます。こうした中、今回のeラーニングの導入は、今後の研修会や講習会のあり方を考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。今後も一人一人が協力して新型コロナウイルス感染症を乗り越えていくことが課題だと思いますが、eラーニングのような医療従事者の負担が少しでも軽減できる仕組みが増えればと思います。



# 気ままにガーデニング始めました

心理療法室 武藤 奈奈

コロナ禍、感染対策のため不要不急の外出泊自粛が病院でも求められる中、開放病棟である C4 病棟の患者さん達と何か病院内でできる活動はないかと、新たに病院内の花木の手入れ（ガーデニング）を始めました。

普段は同じ心理職と通常業務が終わった隙間時間に、完全ボランティアで病院敷地内の花壇の手入れを、できる範囲で行っていました。しかし、コロナ禍の入院中では患者さん達は、思うように外出泊をすることが感染対策上ままならず、少しでも入院生活を快適にできないかものかと、ガーデニングを開始しました。患者さん達は、花木の手入れをすることが初めてで、最初は挿し木、剪定をする際も、どこの葉を切り、どこを残すのか、また植物名も全く知らない状態でした。しかし、週 1 程度活動する中、次第に花の名を覚え、時には得意げに「この花の名前覚えました！ ノースポールですよ〜ね？」と話すことや、自ら積極的に枝を切る&水をあげる行動が見られるようになりました。また、ガーデニング中には、院内散歩中の患者さん&病院スタッフや、帰宅途中&夜勤入りの病院スタッフからも声をかけられることが増え、温かい労を労う言葉を頂くことも多くありました。患者さん達も、声がけをされ、活動を誉められると、「暇なので」と答える反面、どこか嬉しそうな表情をしていました。更に、活動を知った看護師数名から、ご自宅にあるミニバラや、あさがおの種、またご近所から分けて頂いた植物も頂き、早速患者さん達と一緒に植えました。この度、夏の花、ひまわり&あさがおが咲きましたので、夏の空気をと、記事にさせていただきました。

活動を通し、一番気になる患者さん達の声を聞いてみると、「ガーデニングをしていると凄く良い香りが漂ってきて、視覚的にも嗅覚的にもとても癒されました。」といった感想や、「夏の夕 ゼラニウムらに 水注ぐ 青々となり 萌ぎ輝く」と、素敵な短歌を詠んでくださいました。コロナ禍で心身ともに疲労しがちな日々ですが、病院内でこうした人との温かな繋がりが自然に生まれ、ほっこりと私自身が癒され、エネルギーを貰っています。お忙しいお仕事合間に水やりや雑草抜きをご協力くださった先生&看護師の方々、またお声がけいただく皆様、本当にありがとうございます。

P. S. 活動は完全不定期で、継続するかも未定です。水やりは（特に夏場）なかなか通常業務もある中では難しく、単純に言えば水やりをやってくださいの方大募集中です！！是非やりたいという方いらっしゃいましたら、いつでもご連絡お待ちしております〜★



# 熱中症対策について

T・Mさん

梅雨が明け、セミの鳴き声が聞こえる夏の季節になりました。天気予報では、今年も猛暑が予想されているようですが、皆さんどうお過ごしでしょうか？

先日、デイケアの水曜日に行われている生活講座のプログラムで熱中症予防について、勉強しました。熱中症は、体温の上昇と調整機能のバランスが崩れて身体に熱がこもる状態です。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、マスク着用の機会が多いですが、猛暑の中での着用は熱中症のリスクを逆に高めるそうです。気づかないうちに脱水症状になるなど、体温調節がしづらくなってしまうそうです。

屋外では人と2m以上十分な距離が離れているときはマスクを外す、マスク着用時は、激しい運動を避け、のどが渇いていなくてもこまめな水分補給することが環境省から推奨されているそうです。自分も、こまめにポカリスエットを飲むなど対策をしています。

不慣れで不便な面もありますが、暑さ対策の「熱中症予防」とマスク、換気などの「新しい生活様式」を両立できるようにしたいです。



## 総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時  
土曜日 8時30分～13時  
電話：月曜日～金曜日03-3300-5329  
土曜日 03-3300-5231  
◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

《7月》	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	7,845 (7,845)	5,822 (5,482)
◇一日平均患者数	253.1 (261.5)	232.9 (210.8)
◆診療実日数	30 (31)	26 (23)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は [k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp](mailto:k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp)



## 【編集後記】

コロナ対策、コロナ感染者数、コロナの情報、などコロナの事ばかりで日が過ぎていきます。

当初はいつになったら元の生活に戻るのだろうかと思いましたが、ある患者さんから「私にとっては新しい生活はこんな点が良い」と教えてもらってからは、新しい生活になったからこそその良さもないだろうか、と探すことにしています。

社会の変化は一人の力では変えられませんが、それをどう捕らえるかは個々人でできる事かも知れません。

みなさんも「この点に限っては新しい生活様式も悪くない」と思えるものがあつたらぜひ周囲と共有してみてください。

広報委員 常岡